

第26回品川区世論調査について

1 目的

世論調査は、区民の生活実態や区政に対する意向などを把握し、今後の施策の資料とするため、昭和49年から2年に一度実施している。

2 調査の概要

- (1) 調査項目 経年変化を見る「定住性」「生活環境」などの項目に加え、「SDGs」、「水辺利活用」、「幸福実感度や地域愛着度」など14分野36問
- (2) 調査対象 区内在住の満18歳以上の男女 2,500人
(満18歳以上 356,475人。令和6年7月1日現在)
- (3) 抽出方法 層化2段無作為抽出法
※品川、大崎、大井、荏原、八潮の5地域を基本に8地域に層化し、地域の人口比に応じて比例配分する。
- (4) 調査方法 郵送配布/郵送回収またはインターネット回答
- (5) 有効回答数 948人(内訳 郵送回収530人 インターネット回答418人)
- (6) 有効回収率 37.9%
- (7) 調査期間 令和6年8月15日～9月15日

3 今回の特徴

- ・令和5年度品川区民アンケートから比較して、「幸福実感度」が7.9%、「地域愛着度」が8.3%上昇。
- ・「自分らしく幸せに暮らしていくために、重要だと考えること」のうち、「重要度は高いが、満足度は低い」項目が解消。(令和5年度品川区民アンケートでは、「子どもを安心して産み、育てられる環境」「地震や台風などの自然災害に対する備え」など4項目)

4 報告書の発行

- (1) 「第26回品川区世論調査報告書」 450部
- (2) 概要版「第26回品川区世論調査あらまし」 3,500部
概要版「第26回品川区世論調査あらまし」(英語版) 電子データのみ

5 周知

報告書：区政資料コーナー、図書館にて閲覧可。

内容を区ホームページに掲載、概要を広報しながら3/11号に掲載。

概要版：区政資料コーナー、図書館、地域センター、戦略広報課窓口にて配布。
内容を区ホームページに掲載。

第26回

品川区世論調査 あ ら ま し

この小冊子は、2024(令和6)年に実施した「第26回世論調査」の要約版です。今回は、経年変化をみる定住性や生活環境などの項目に加え、幸福実感度や地域愛着度、SDGs、水辺利活用などの項目についてもおたずねしました。調査の結果は、今後の区政運営にあたり貴重な資料として活用してまいります。

ご協力いただきました区民の皆様には心より御礼を申し上げますとともに、調査結果の概要をお知らせいたします。

調査の内容

- 1 定住性について
- 2 生活環境について
- 3 幸福実感度や地域愛着度について
- 4 公共施設について
- 5 地域活動への参加について
- 6 スポーツ・運動の実施状況について
- 7 SDGsについて
- 8 環境について
- 9 ごみ減量・リサイクルについて
- 10 みどりについて
- 11 水辺利活用について
- 12 心の健康・自殺対策について
- 13 防災について
- 14 広報とデジタル化について

調査概要

- 調査対象：品川区在住の満18歳以上の男女
(令和6年7月1日現在)
- 抽出方法：層化2段無作為抽出法
- 対象者数：2,500人
- 調査方法：郵送配布・郵送回収またはインターネット回答
- 回収数：948人
(郵送回収 530人 インターネット回答 418人)
- 回収率：37.9%
- 調査期間：令和6年8月15日～9月15日
- 調査機関：株式会社 ケー・デー・シー

この要約版は、世論調査の結果を抜粋し、わかりやすくまとめたものです。なお、回答比率(%)は少数第2位を四捨五入し、少数第1位まで表記しているため、回答比率の合計が100.0%にならない場合があります。

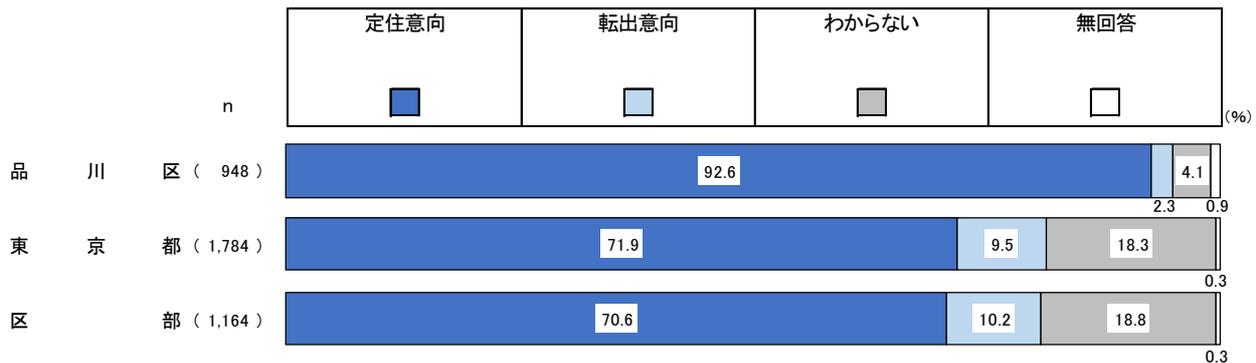
詳しい調査結果は、第26回世論調査として区ホームページと、区政資料コーナー(第三庁舎3階)または、図書館で閲覧することができます。

1 定住性について

■ 定住意向

区民の定住意向は高い

定住意向をたずねたところ、「ずっと住みたい」(48.7%)と「当分は住みたい」(43.9%)を合わせた『定住意向』は92.6%であり、非常に高い割合となっています。東京都、区部との比較でみると、『定住意向』は東京都より20.7ポイント、区部より22.0ポイント高くなっています。

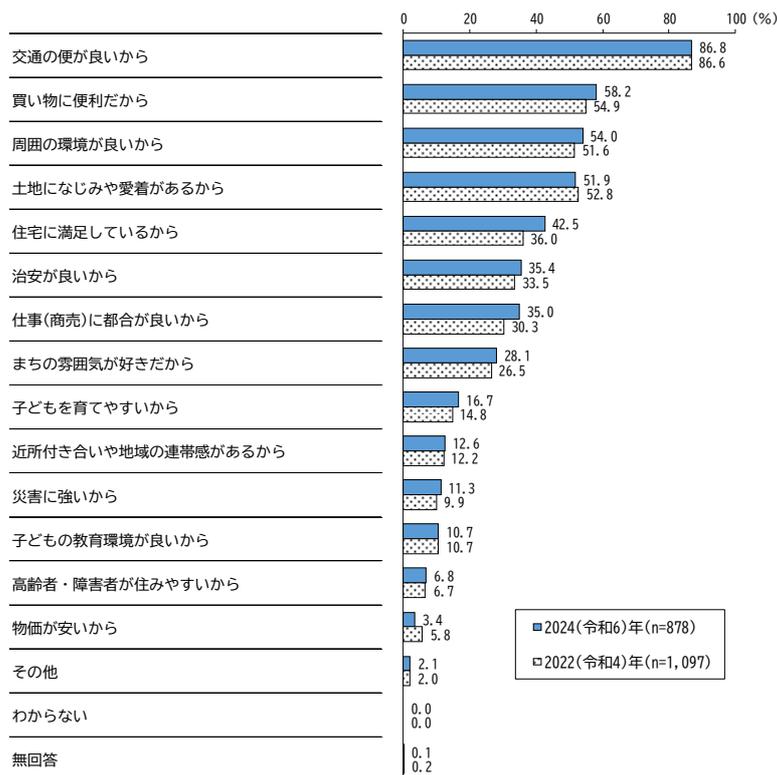


※注 意 点: 東京都と区部は地域定住意向の調査結果
資料出所: 東京都生活文化局「都民生活に関する世論調査」(令和5年)

■ 定住意向理由

交通の便が良いという理由が上位

品川区に「ずっと住みたい」「当分は住みたい」と思う理由は、「交通の便が良いから」が86.8%で最も高く、次いで「買い物に便利だから」(58.2%)、「周囲の環境が良いから」(54.0%)、「土地になじみや愛着があるから」(51.9%)、「住宅に満足しているから」(42.5%)の順となっています。

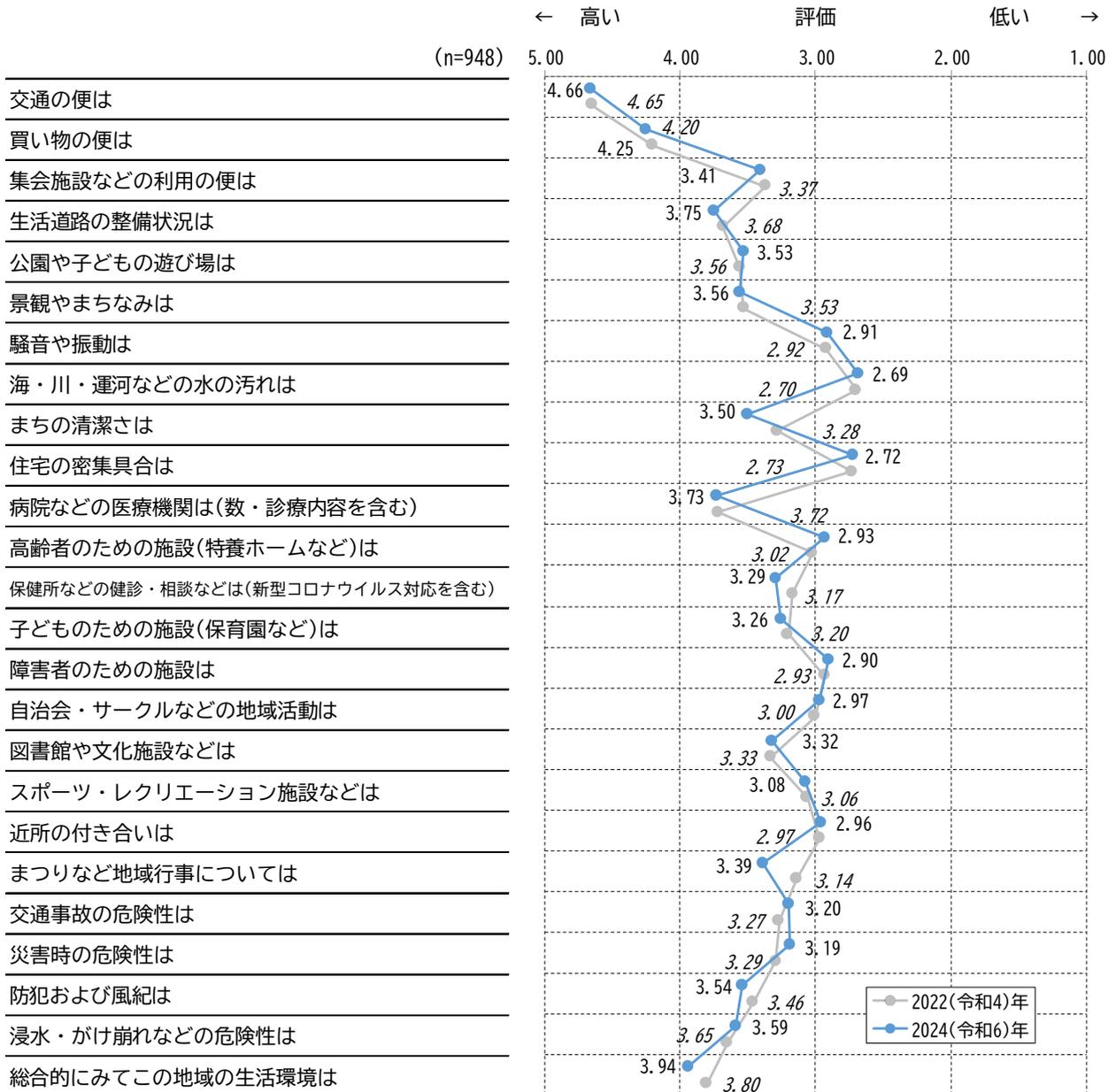


2 生活環境について

■ 生活環境についての評価

交通や買い物の便での評価が高く、環境面での評価がやや低い

生活環境を評価点でみると、「交通の便」「買い物の便」は4点を超える高い評価点となっています。他方、「騒音や振動」「海・川・運河などの水の汚れ」「住宅の密集具合」といった、生活の快適さに関する項目で評価点がやや低くなっています。



評価点 = (「良い」の回答者数×5点 + 「やや良い」の回答者数×4点 + 「普通」の回答者数×3点 + 「やや悪い」の回答者数×2点 + 「悪い」の回答者数×1点) ÷ 回答者数

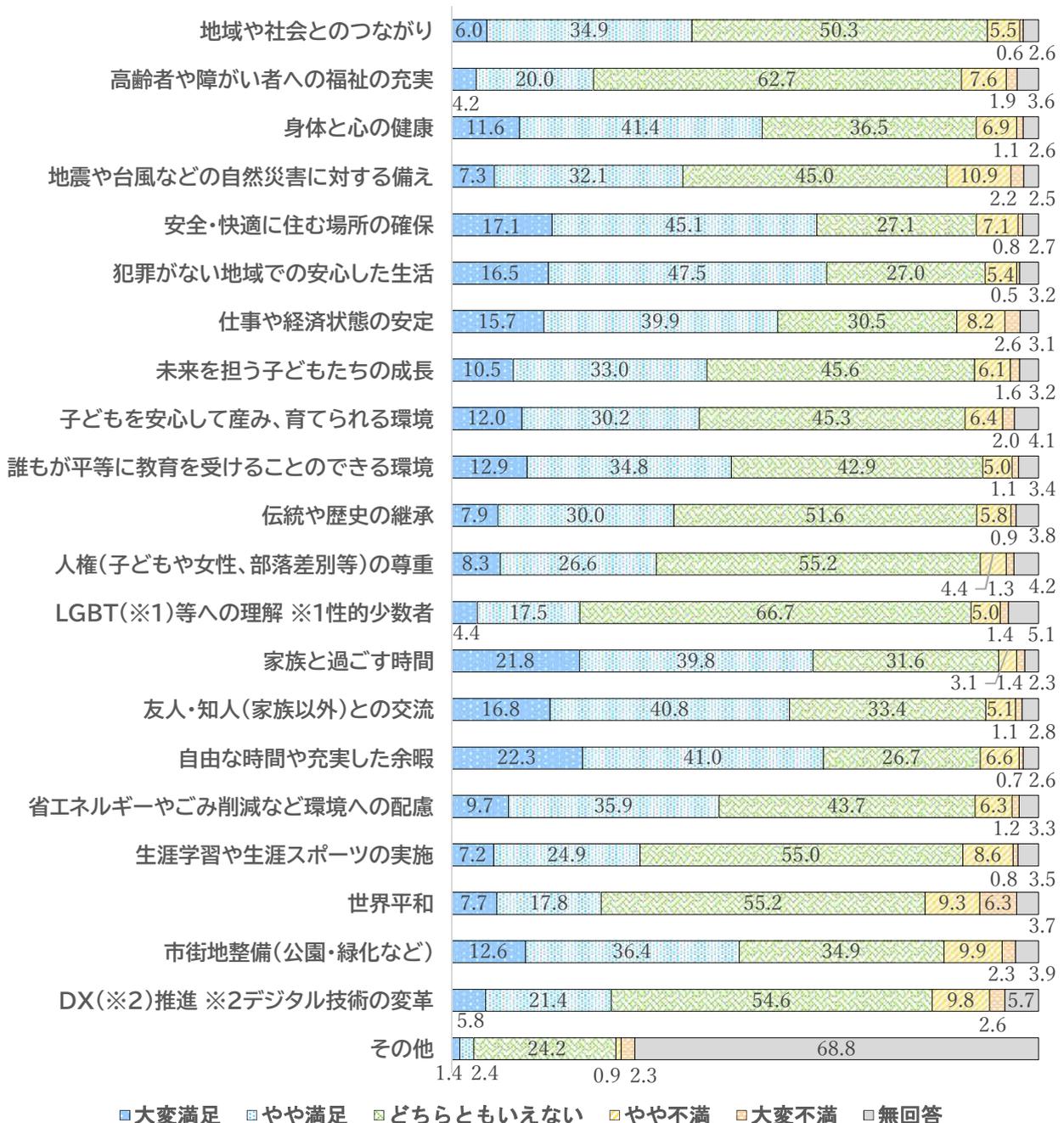
図中、青色は2024(令和6)年の評価点を、灰色(斜体)は2022(令和4)年の評価点を示します。

3 幸福実感度や地域愛着度について

■ 自分らしく幸せに暮らしていくために、重要だと考えること

「犯罪がない地域での安心した生活」「自由な時間や充実した余暇」「安全・快適に住む場所の確保」が上位3項目

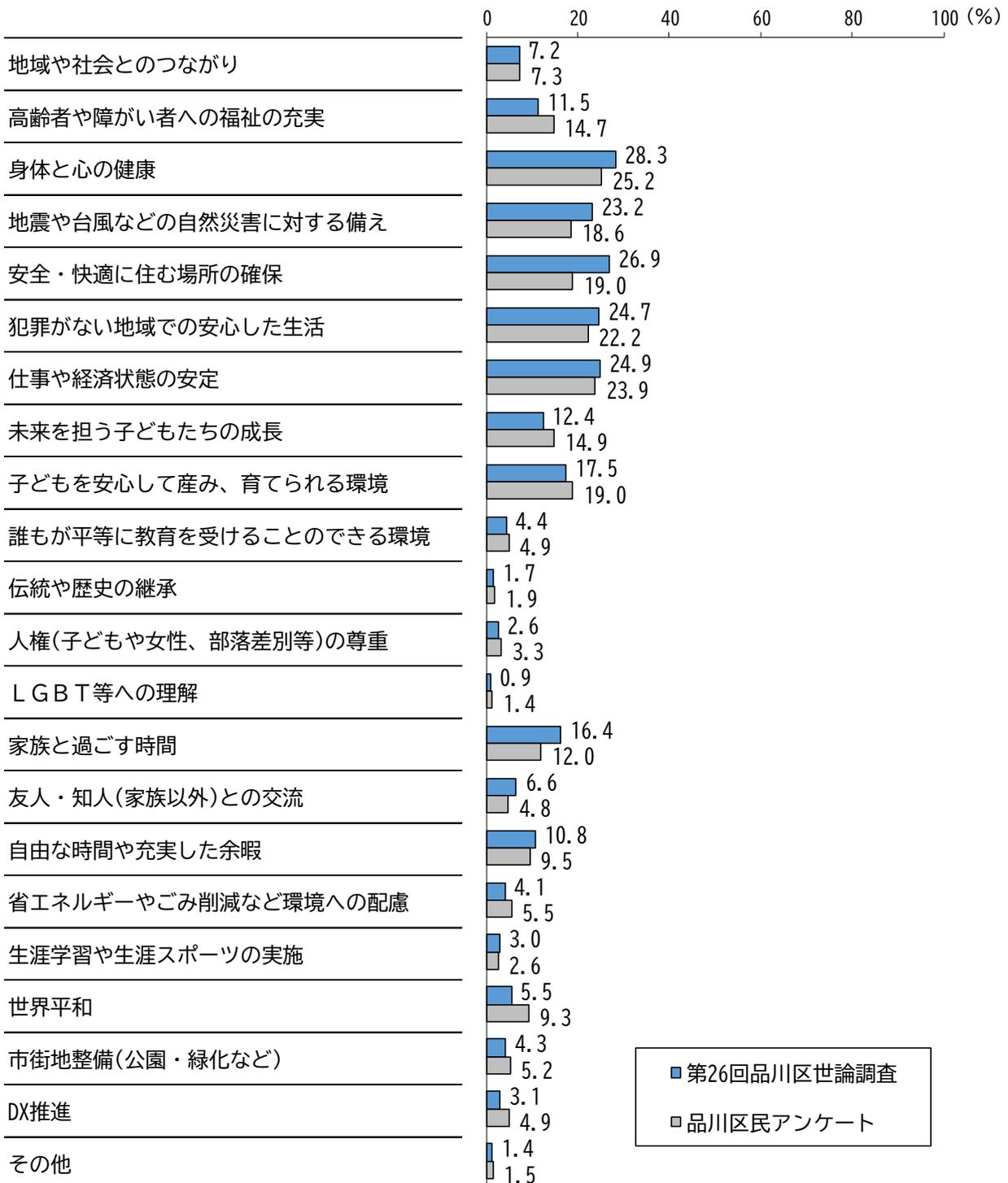
自分らしく幸せに暮らしていくために、重要だと考えることは、「大変満足」と「やや満足」の割合を合わせると「犯罪がない地域での安心した生活」(64.0%)が最も高く、次いで「自由な時間や充実した余暇」(63.3%)、「安全・快適に住む場所の確保」(62.2%)の順となっています。



■ 自分らしく幸せに暮らしていくために、特に重要だと考えること

「身体と心の健康」「安全・快適に住む場所の確保」「仕事や経済状態の安定」が上位3項目

特に重要だと考えることは、「身体と心の健康」(28.3%)が最も高く、次いで「安全・快適に住む場所の確保」(26.9%)、「仕事や経済状態の安定」(24.9%)、「犯罪がない地域での安心した生活」(24.7%)、「地震や台風などの自然災害に対する備え」(23.2%)の順となっています。



※品川区民アンケートは2023(令和5)年に実施

■ 満足度と重要度の関連

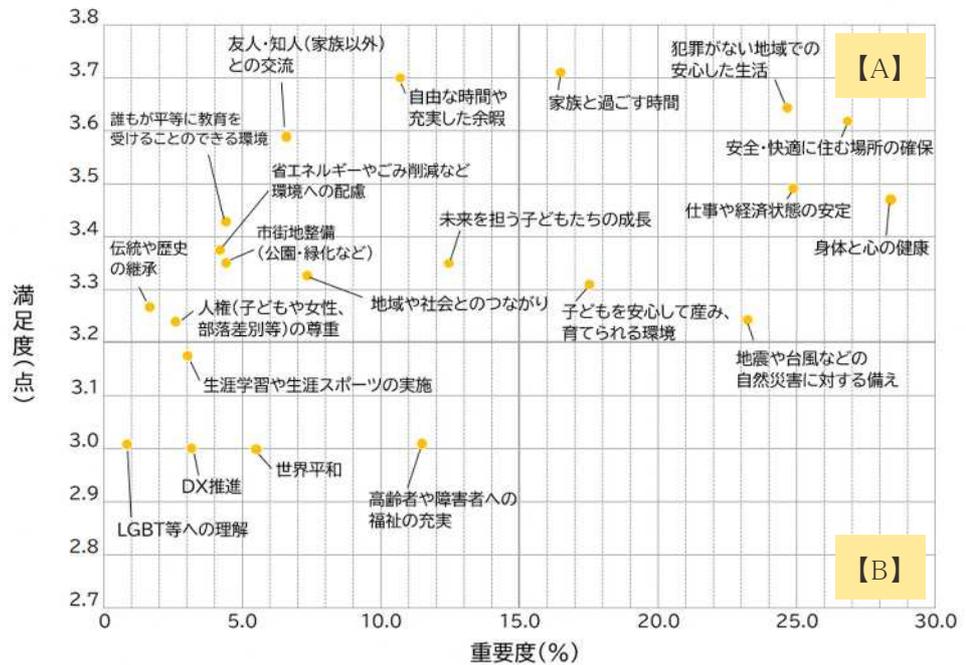
「自分らしく幸せに暮らしていくために、重要だと考えること」の満足度と重要度の関連は以下のとおりです。

【A】重要度が高く、満足度も高い

- ・家族と過ごす時間
- ・犯罪がない地域での安心した生活
- ・安全・快適に住む場所の確保
- ・仕事や経済状態の安定
- ・身体と心の健康
- ・子どもを安心して産み、育てられる環境
- ・地震や台風などの自然災害に対する備え

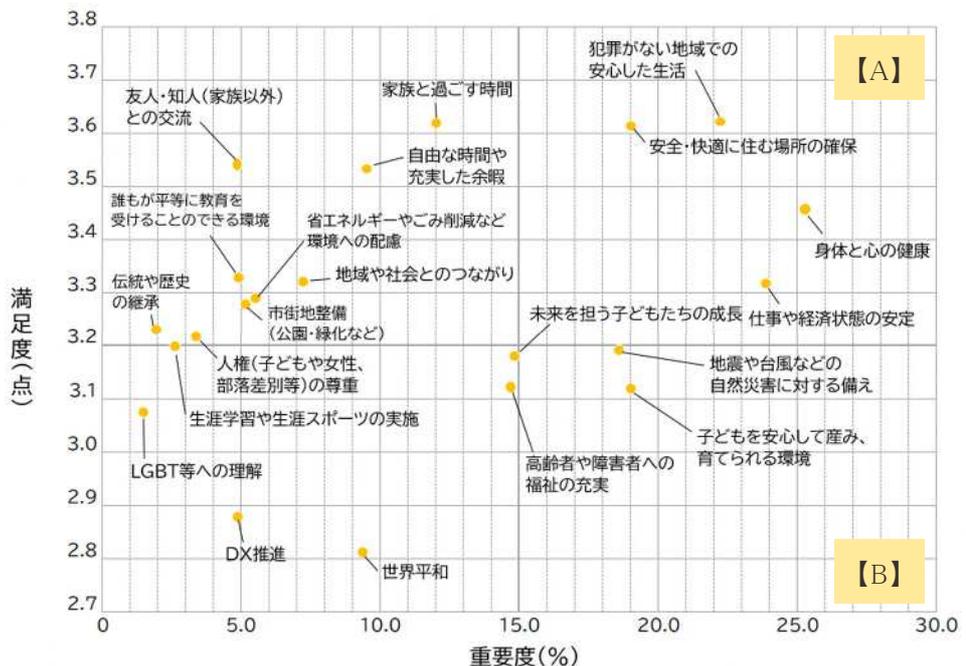
【B】重要度は高いが、満足度は低い 該当なし

第 26 回世論調査 2024(令和 6)年



(参考)

品川区民アンケート 2023(令和 5)年

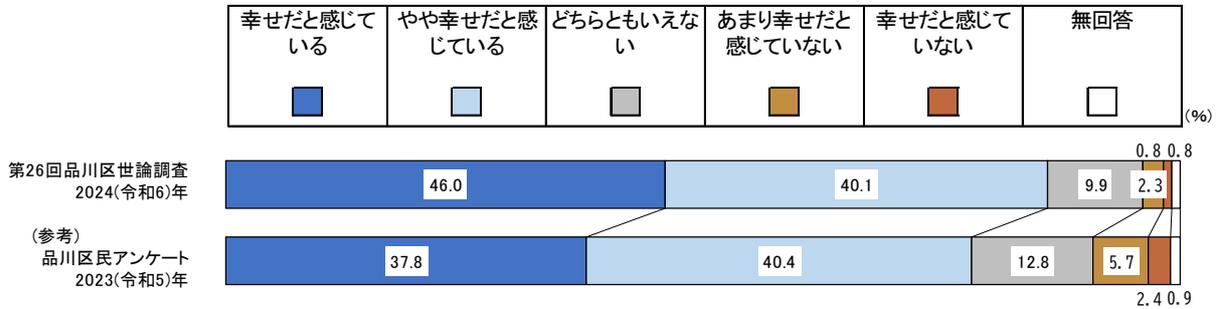


※満足度の点数は、選択肢を1～5点までの点数を各個人に割り当て、人数で割った平均値で算出しています。
 大変満足：5点 やや満足：4点 どちらともいえない：3点 やや不満：2点 大変不満：1点

■ 幸福実感度

『幸せだ』と感じている人が8割半ば

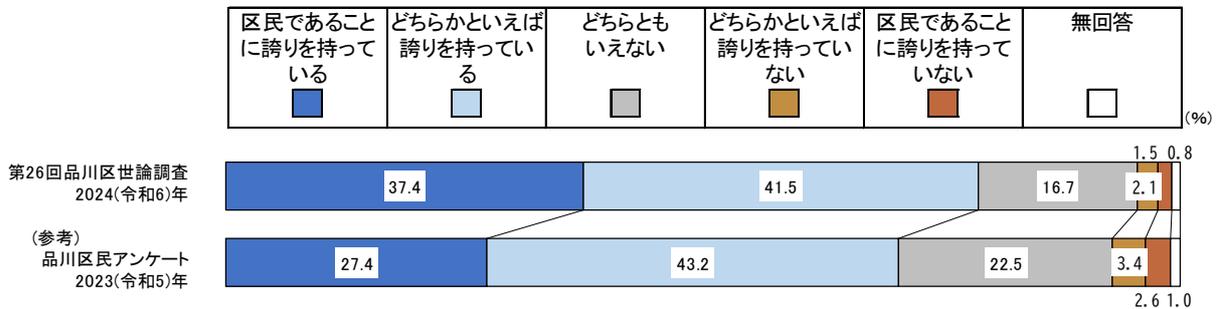
幸福実感度についてたずねたところ、「幸せだと感じている」(46.0%)が最も高く、「やや幸せだと感じている」(40.1%)と合わせると86.1%であり、高い割合となっています。



■ 地域愛着度

『誇りを持っている』が8割近く

地域愛着度についてたずねたところ、「どちらかといえば誇りを持っている」(41.5%)が最も高く、「区民であることに誇りを持っている」(37.4%)と合わせると78.9%であり、幸福実感度同様、高い割合となっています。

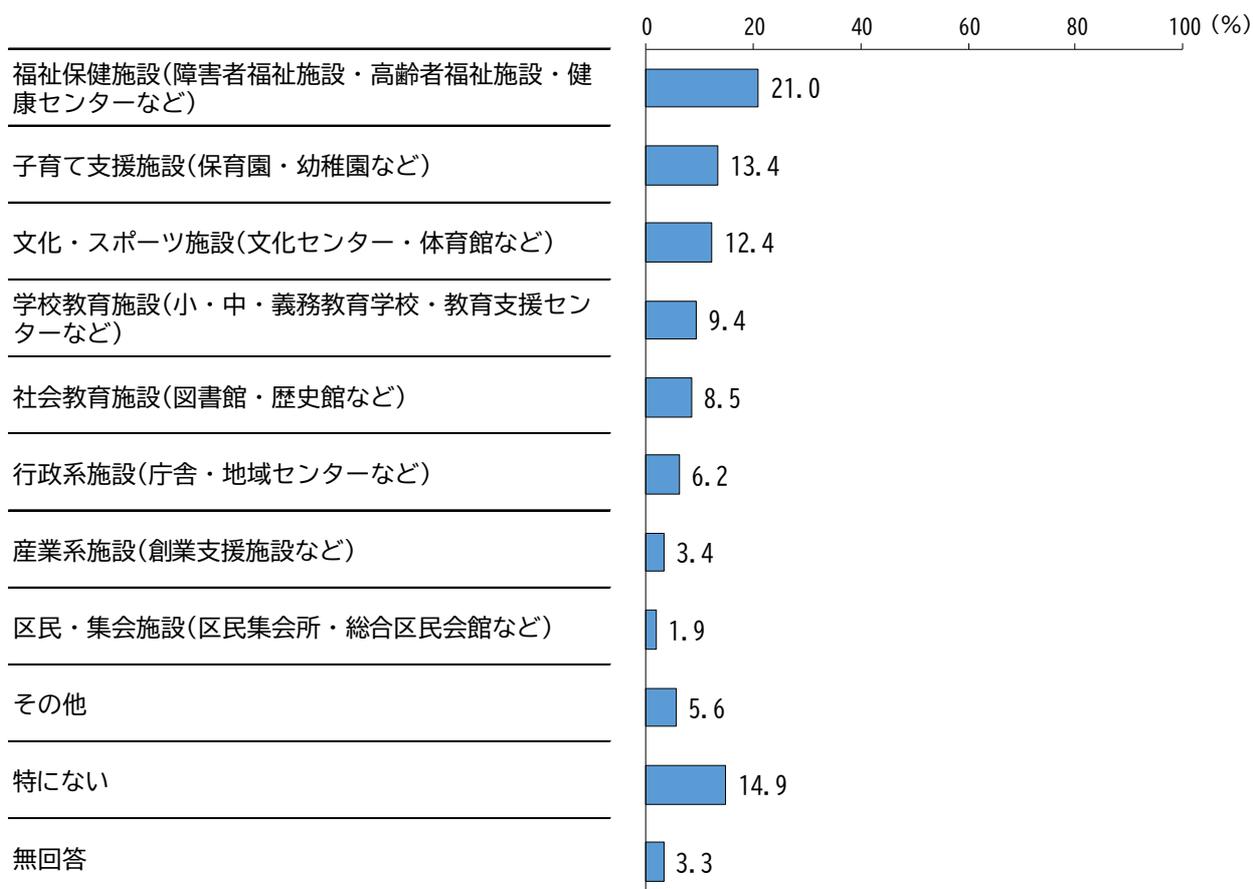


4 公共施設について

■ 優先的に整備していきべきと考える施設

「福祉保健施設(障害者福祉施設・高齢者福祉施設・健康センターなど)」が2割超え

優先的に整備していきべきと考える施設をたずねたところ、「福祉保健施設(障害者福祉施設・高齢者福祉施設・健康センターなど)」が21.0%で最も高く、次いで「子育て支援施設(保育園・幼稚園など)」(13.4%)、「文化・スポーツ施設(文化センター・体育館など)」(12.4%)、「学校教育施設(小・中・義務教育学校・教育支援センターなど)」(9.4%)、「社会教育施設(図書館・歴史館など)」(8.5%)の順となっています。

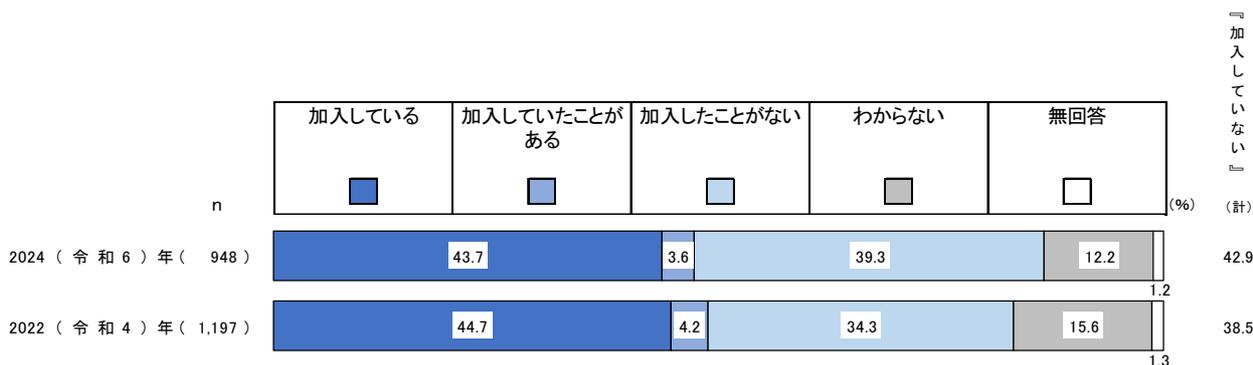


5 地域活動への参加について

■ 町会・自治会の加入状況

「加入している」が4割半ば

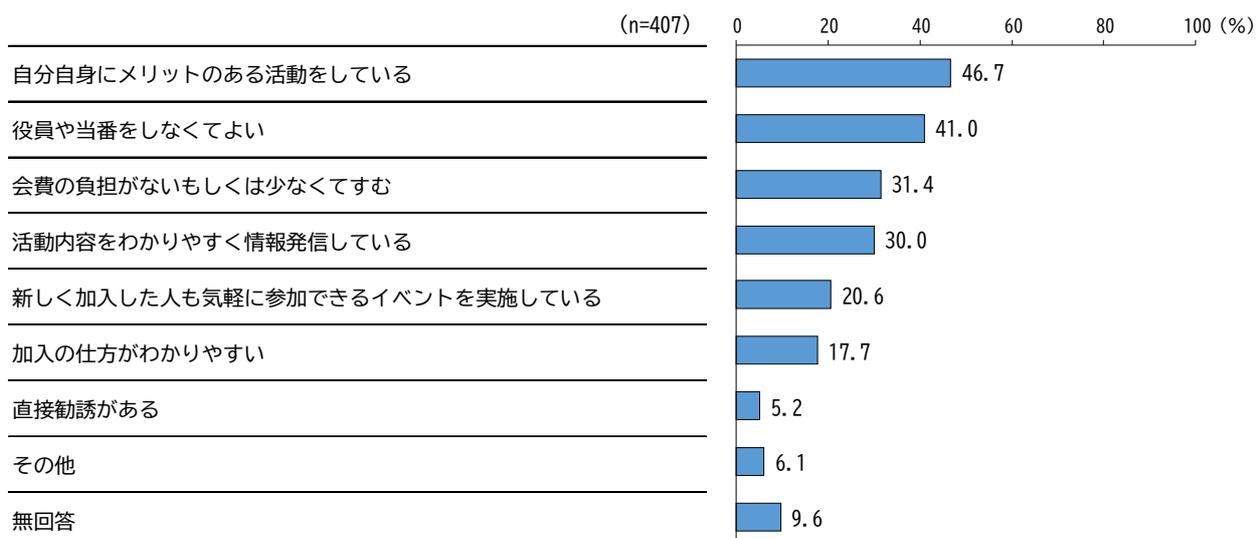
町会・自治会の加入状況をたずねたところ、「加入している」が43.7%で4割半ばとなっています。一方、「加入していたことがある」(3.6%)と「加入したことがない」(39.3%)を合わせた『加入していない』は42.9%となっています。



■ どうすれば町会・自治会に加入したいと思うか

「自分自身にメリットのある活動をしている」が4割半ば

どうすれば町会・自治会に加入したいと思うかたずねたところ、「自分自身にメリットのある活動をしている」が46.7%で最も高く、次いで「役員や当番をしなくてよい」(41.0%)、「会費の負担がないもしくは少なくすむ」(31.4%)、「活動内容をわかりやすく情報発信している」(30.0%)、「新しく加入した人も気軽に参加できるイベントを実施している」(20.6%)、「加入の仕方がわかりやすい」(17.7%)の順となっています。

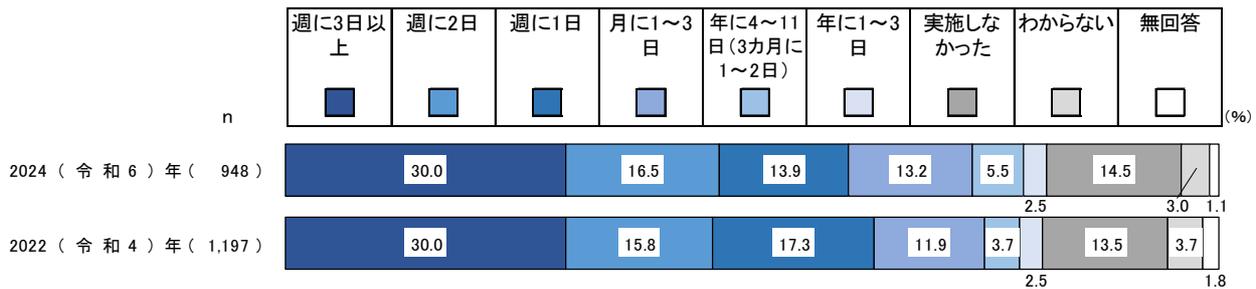


6 スポーツ・運動の実施状況について

■ スポーツや運動を行う頻度

「週に3日以上」が3割、「実施しなかった」が1割半ば

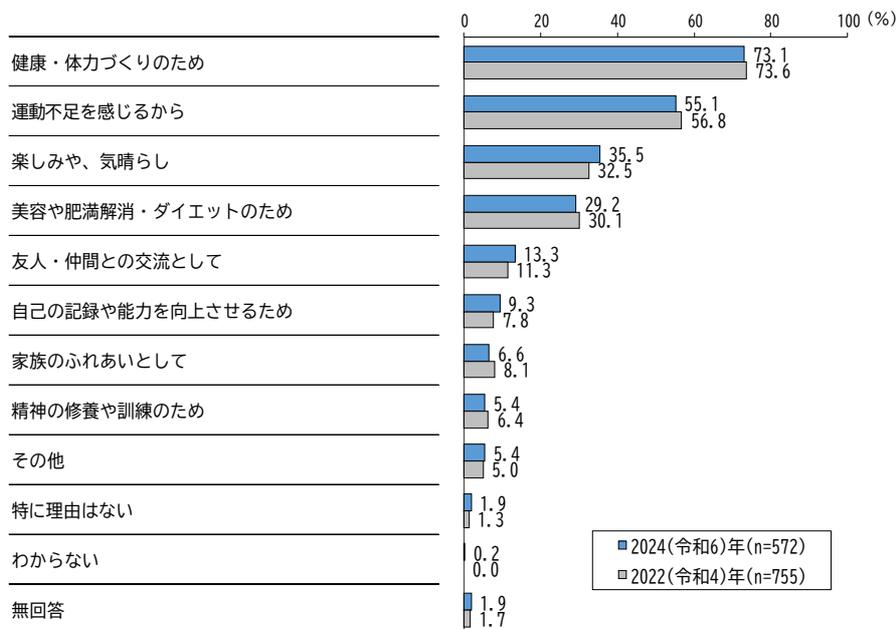
スポーツや運動を行う頻度をたずねたところ、「週に3日以上」が30.0%で最も高く、次いで、「週に2日」(16.5%)、「週に1日」(13.9%)となっています。一方、「実施しなかった」は14.5%となっています。



■ 週に1日以上実施した理由

「健康・体力づくりのため」が7割半ば

スポーツや運動を実施した理由をたずねたところ、「健康・体力づくりのため」が73.1%で最も高く、次いで「運動不足を感じるから」(55.1%)、「楽しみや、気晴らし」(35.5%)、「美容や肥満解消・ダイエットのため」(29.2%)、「友人・仲間との交流として」(13.3%)の順となっています。

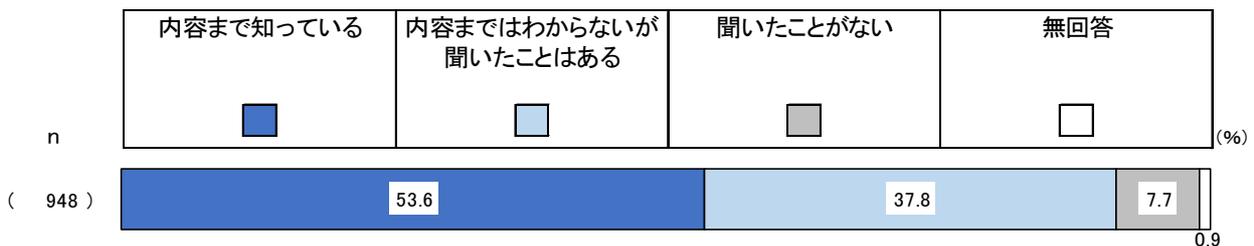


7 SDGsについて

■ SDGsの認知度

SDGsを認知している人が9割超え

SDGsの認知度をたずねたところ、「内容まで知っている」が53.6%、「内容まではわからないが聞いたことはある」が37.8%となっています。一方、「聞いたことがない」は7.7%となっています。「内容まで知っている」(53.6%)と「内容まではわからないが聞いたことはある」(37.8%)を合わせたSDGsを認知している人は91.4%となっています。

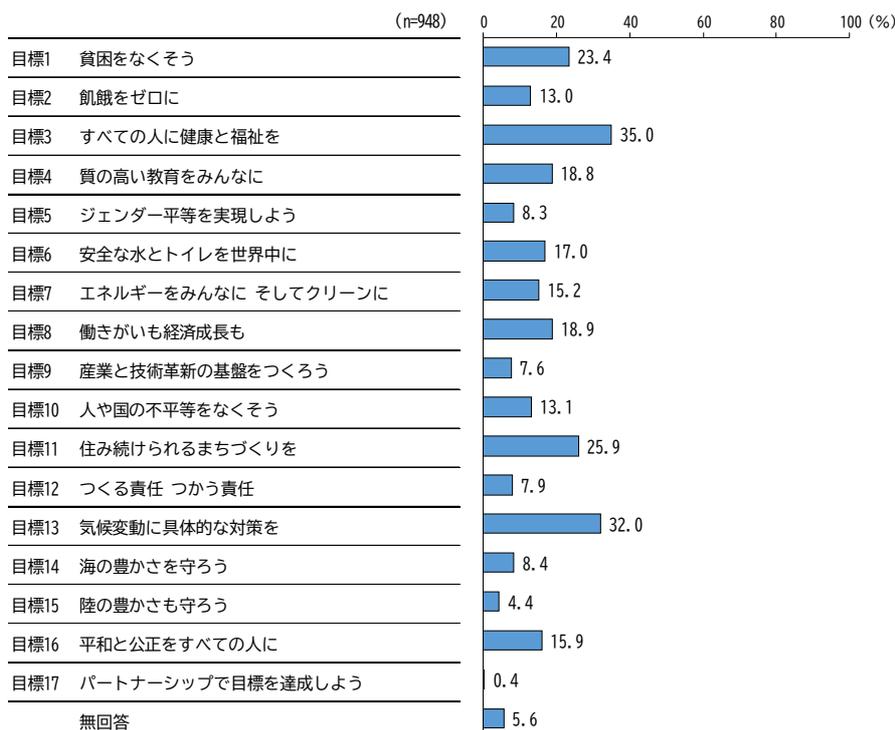


※SDGsとは、2030年までに達成すべき世界共通の目標として提示された17つの目標のことです。

■ 特に取り組んでいく必要がある目標

「すべての人に健康と福祉を」が3割半ば

特に取り組んでいく必要がある目標をたずねたところ、「すべての人に健康と福祉を」が35.0%で最も高く、次いで「気候変動に具体的な対策を」(32.0%)、「住み続けられるまちづくりを」(25.9%)、「貧困をなくそう」(23.4%)、「働きがいも経済成長も」(18.9%)、「質の高い教育をみんなに」(18.8%)の順となっています。

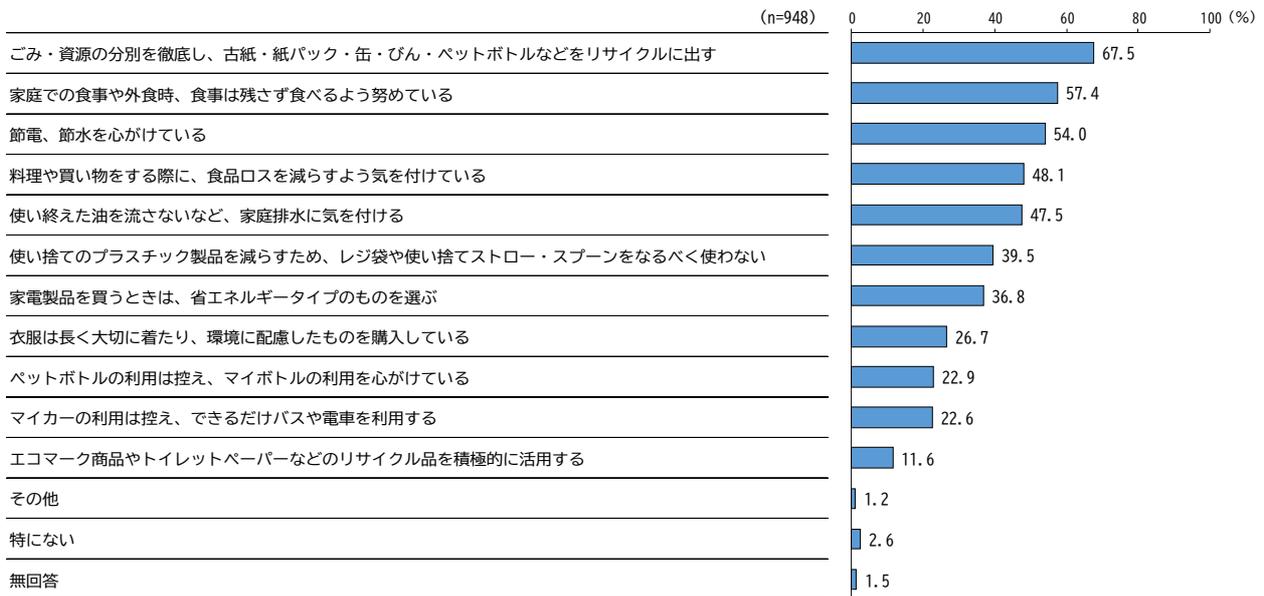


8 環境について

■ 環境を守るために日常生活で心がけていること

「ごみ・資源の分別を徹底し、古紙・紙パック・缶・びん・ペットボトルなどをリサイクルに出す」が7割近く

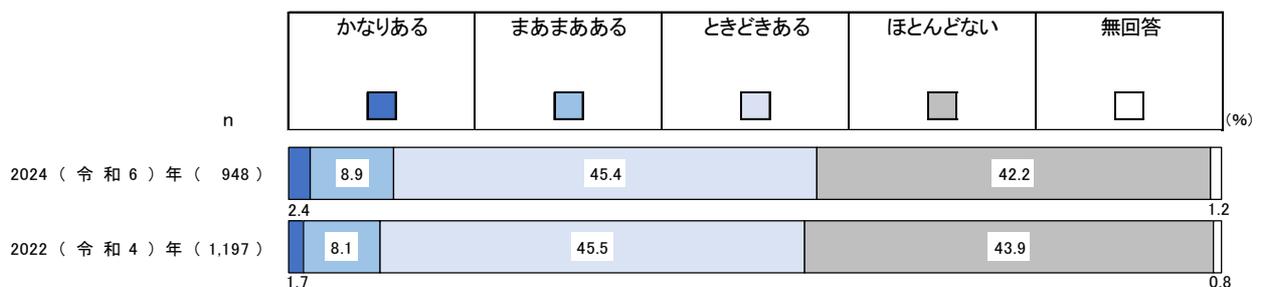
環境を守るために日常生活で心がけていることをたずねたところ、「ごみ・資源の分別を徹底し、古紙・紙パック・缶・びん・ペットボトルなどをリサイクルに出す」が67.5%で最も高く、次いで「家庭での食事や外食時、食事は残さず食べるよう努めている」(57.4%)、「節電、節水を心がけている」(54.0%)の順となっています。



■ 家庭で食べられる食品を捨ててしまうこと

「ときどきある」が4割半ば

家庭で食べられる食品を捨ててしまうことがあるかたずねたところ、「ときどきある」が45.4%で最も高く、次いで「ほとんどない」が42.2%となっています。一方、「まあまあある」が8.9%、「かなりある」が2.4%となっています。

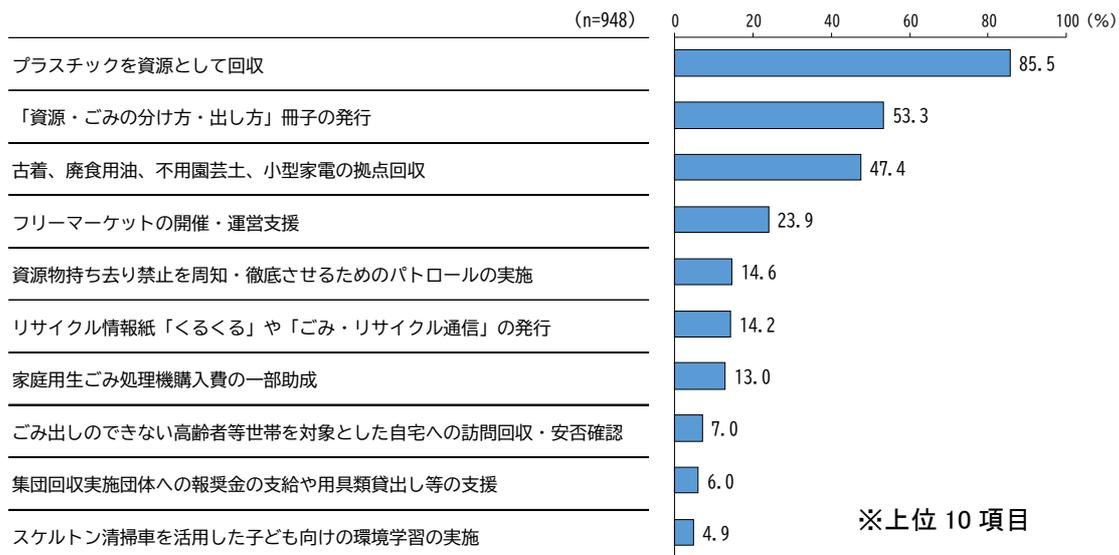


9 ごみ減量・リサイクルについて

■ 各種事業の認知度

「プラスチック製容器包装を資源として回収」が8割半ば

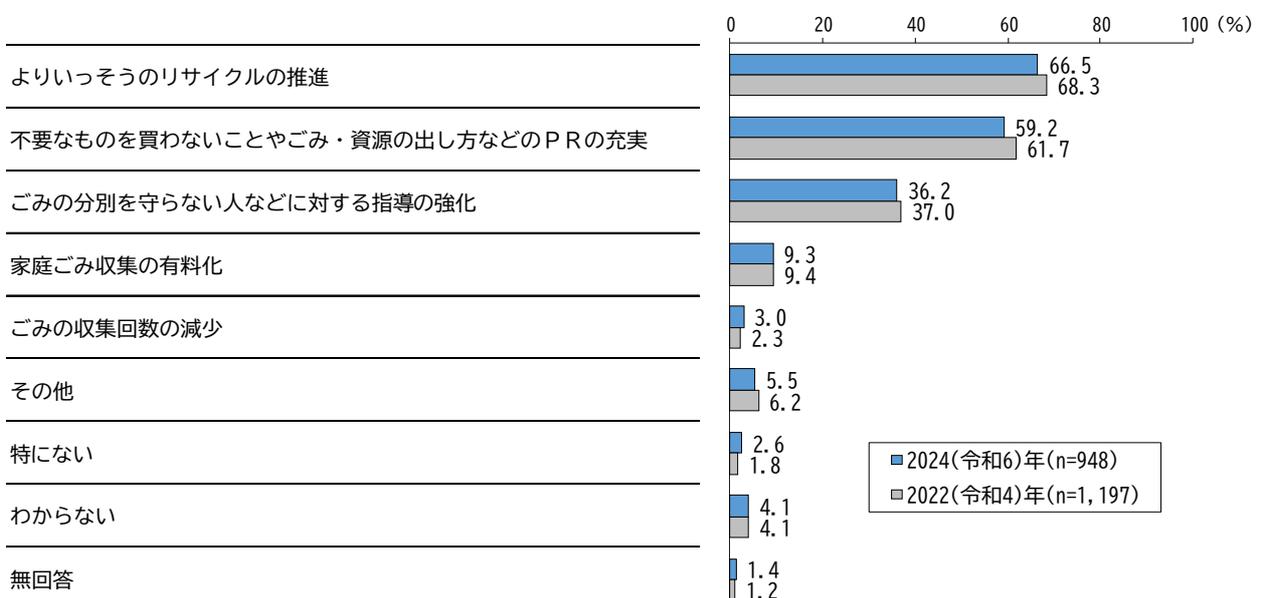
各種事業の認知度をたずねたところ、「プラスチックを資源として回収」が85.5%で最も高く、次いで、「『資源・ごみの分け方・出し方』冊子の発行」(53.3%)、「古着、廃食用油、不用園芸土、小型家電の拠点回収」(47.4%)、「フリーマーケットの開催・運営支援」(23.9%)、「資源物持ち去り禁止を周知・徹底させるためのパトロールの実施」(14.6%)の順となっています。



■ 今後の事業で必要なこと

「よりいっそうのリサイクルの推進」が6割半ば

今後のごみ・リサイクル事業で必要と思われることをたずねたところ、「よりいっそうのリサイクルの推進」が66.5%で最も高く、次いで、「不要なものを買わないことやごみ・資源の出し方などのPRの充実」(59.2%)、「ごみの分別を守らない人などに対する指導の強化」(36.2%)の順となっています。

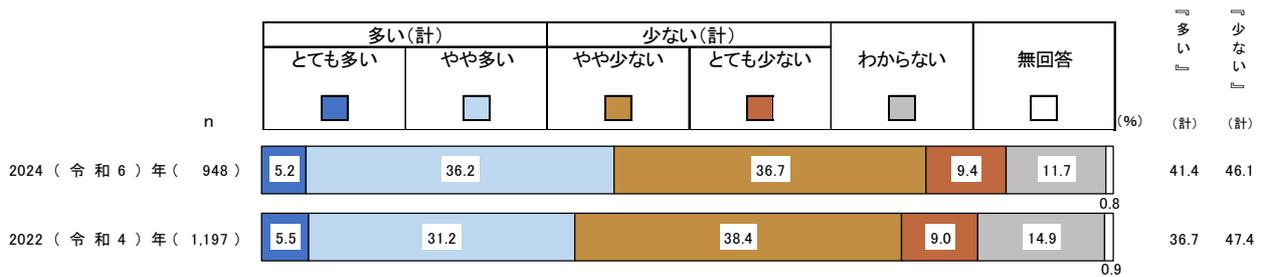


10 みどりについて

■ 品川区のみどりについて

『多い』が4割超え

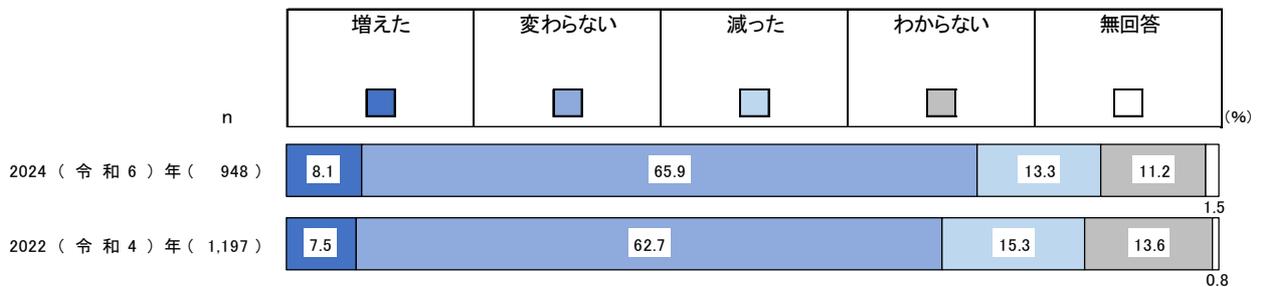
品川区のみどりについてたずねたところ、「とても多い」(5.2%)と「やや多い」(36.2%)を合わせた『多い』は41.4%となっている。一方、「やや少ない」(36.7%)と「とても少ない」(9.4%)を合わせた『少ない』は46.1%となっています。



■ 周辺のみどりの変化

「変わらない」が6割半ば

住居周辺のみどりの変化についてたずねたところ、「増えた」が8.1%、「変わらない」が65.9%、「減った」が13.3%となっています。

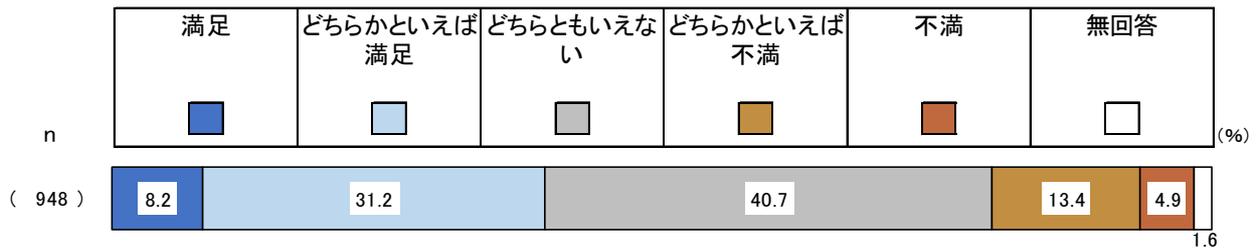


11 水辺利活用について

■ 水のきれいさや水辺空間の整備の満足度

『満足』している人が4割近く

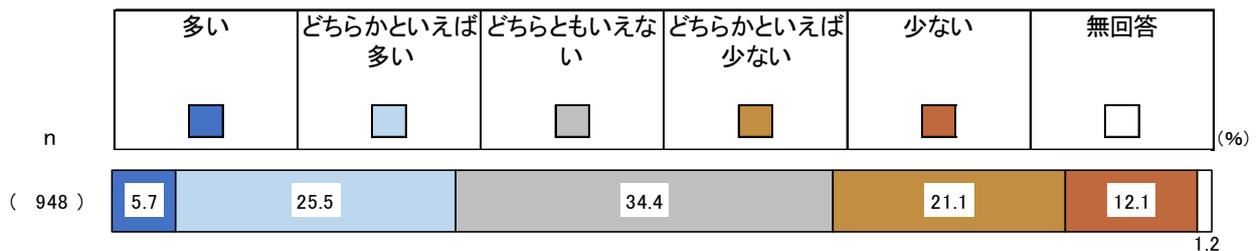
水のきれいさや水辺空間の整備の満足度をたずねたところ、「どちらともいえない」が40.7%で最も高く、次いで「どちらかといえば満足」(31.2%)、「どちらかといえば不満」(13.4%)、「満足」(8.2%)、「不満」(4.9%)となっています。「満足」(8.2%)と「どちらかといえば満足」(31.2%)を合わせた『満足』している人は39.4%となっています。



■ 親しめる水辺の多さ

『多い』と感じている人が3割超え

親しめる水辺の多さをたずねたところ、「どちらともいえない」が34.4%で最も高く、次いで「どちらかといえば多い」(25.5%)、「どちらかといえば少ない」(21.1%)、「少ない」(12.1%)、「多い」(5.7%)となっています。「多い」(5.7%)と「どちらかといえば多い」(25.5%)を合わせた『多い』と感じている人は31.2%となっています。

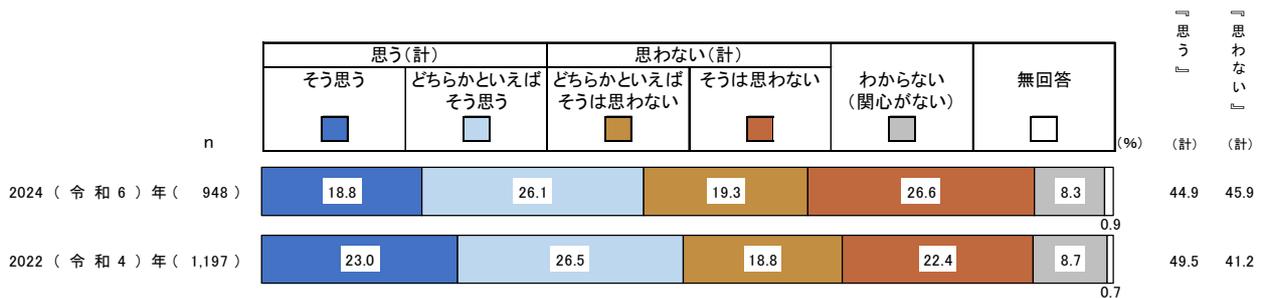


12 心の健康・自殺対策について

■ 自殺対策は自分自身に関わることだと思うか

『思う』が4割半ば

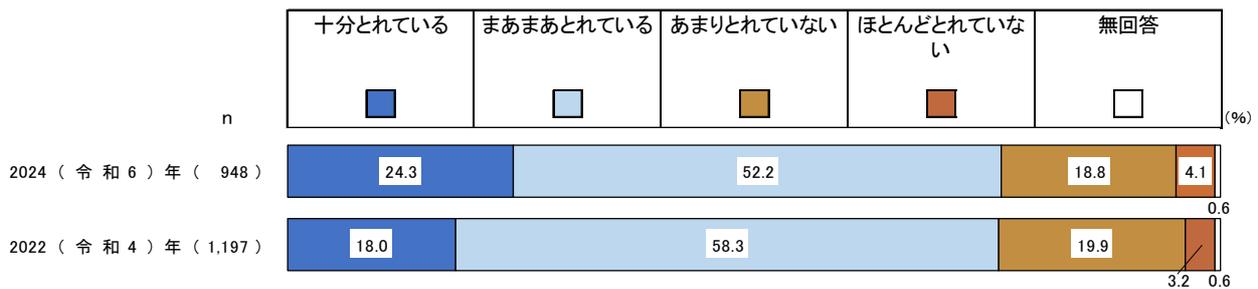
自殺対策は自分自身に関わることだと思うかたずねたところ、「そうは思わない」が26.6%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(26.1%)、「どちらかといえばそうは思わない」(19.3%)となっています。「そう思う」(18.8%)と「どちらかといえばそう思う」(26.1%)を合わせた『思う』は44.9%となっています。



■ 心や身体の休養が十分にとれているか

『とれている』が7割半ば

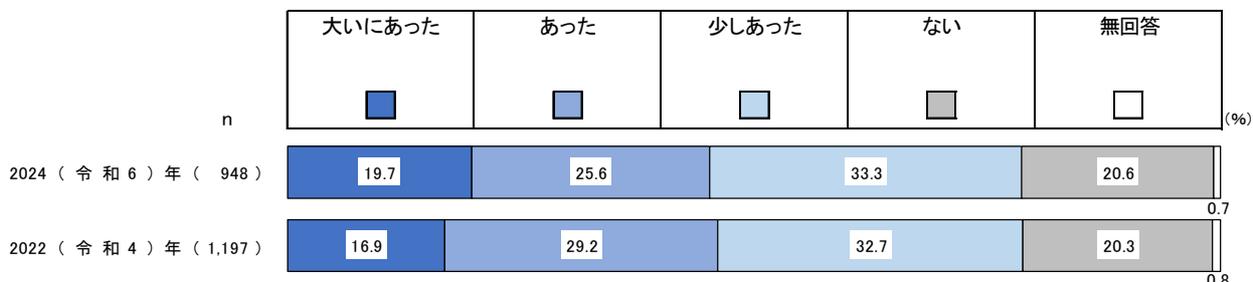
心や身体の休養が十分にとれているかたずねたところ、「まあまあとれている」が52.2%と最も高く、次いで、「十分とれている」(24.3%)、「あまりとれていない」(18.8%)となっています。「十分とれている」(24.3%)と「まあまあとれている」(52.2%)を合わせた、心や身体の休養が『とれている』は76.5%となっています。



■ 1カ月間に不安や悩み、ストレスがあったか

「少しあった」が3割超え

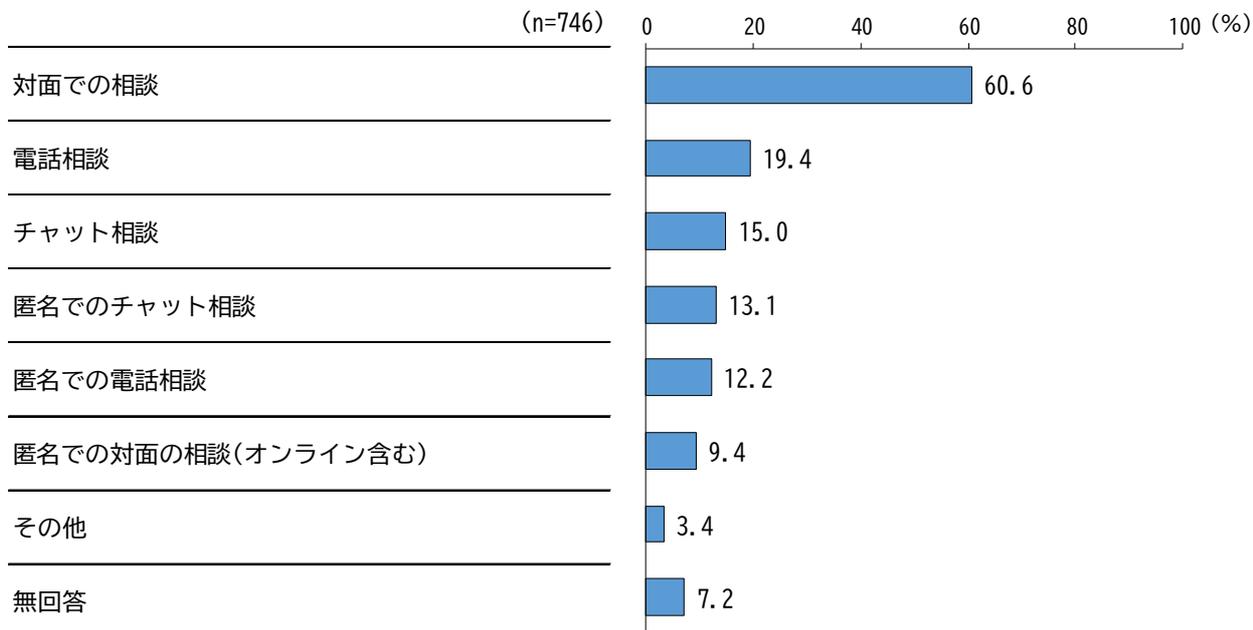
この1カ月間に日常生活で不安、悩み、ストレスなどがあったかたずねたところ、「少しあった」が33.3%と最も高く、次いで、「あった」(25.6%)、「ない」(20.6%)、「大いにあった」(19.7%)となっています。



■ 相談しやすい方法は何か

「対面での相談」が6割

不安、悩みを相談する人はいるかたずねたところ、「対面での相談」が60.6%と最も高く、次いで、「電話相談」(19.4%)、「チャット相談」(15.0%)の順となっています。

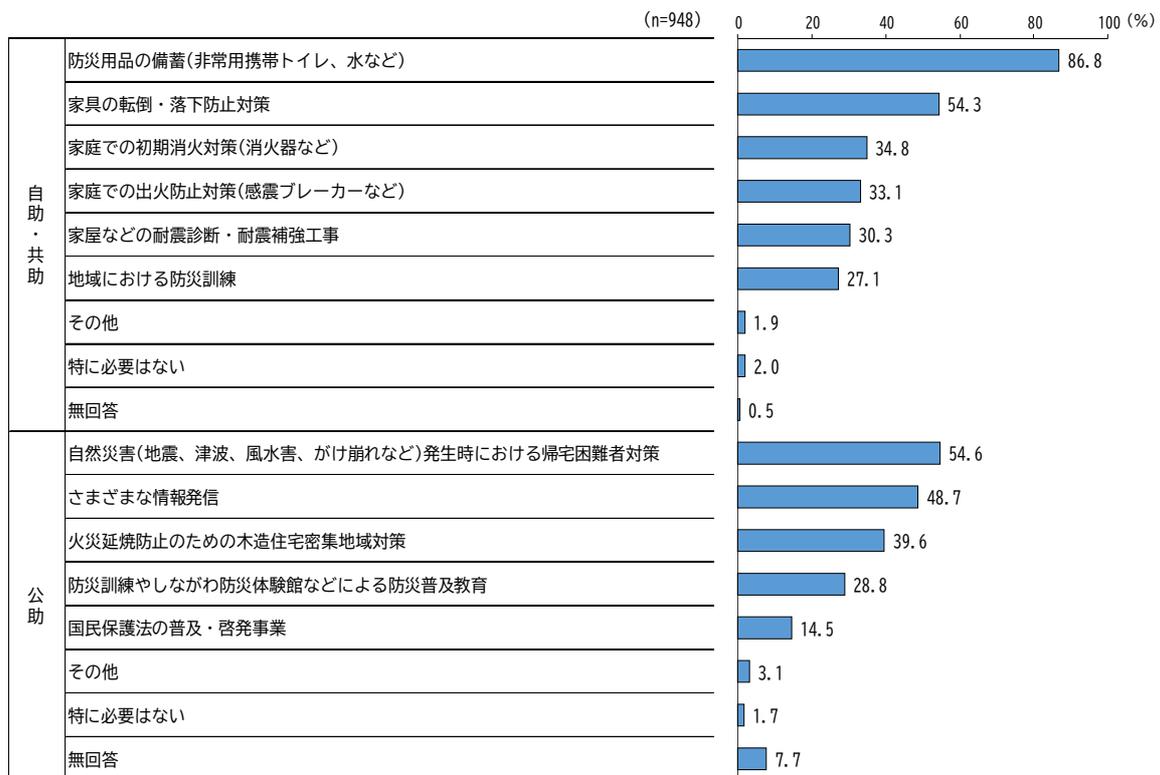


13 防災について

■ 今後充実すべき防災対策

自助・共助では「防災用品の備蓄」、公助では「自然災害発生時における帰宅困難者対策」が高い

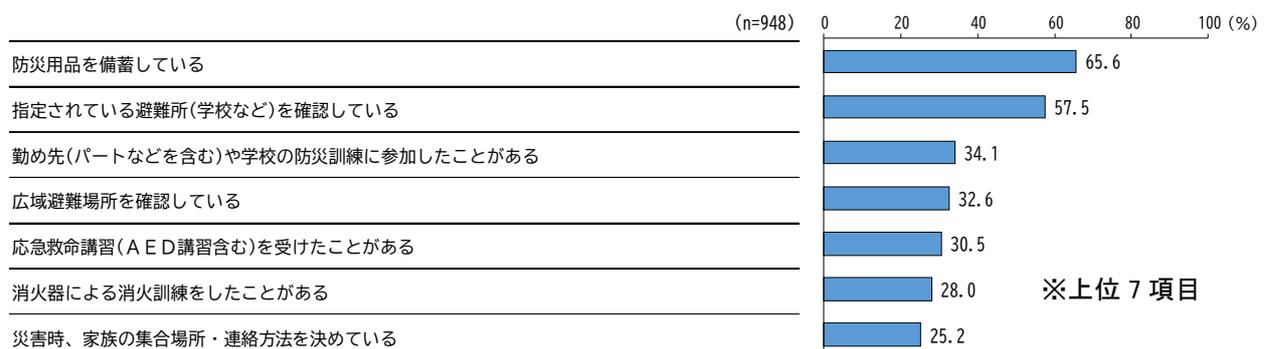
今後充実すべき防災対策についてたずねたところ、＜自助・共助＞では「防災用品の備蓄(非常用携帯トイレ、水など)」が86.8%で最も高く、次いで「家具の転倒・落下防止対策」(54.3%)となっています。＜公助＞自然災害(地震、津波、風水害、がけ崩れなど)発生時における帰宅困難者対策」が54.6%と最も高く、次いで「さまざまな情報発信」(48.7%)となっています。



■ 防災に関して既に行っていること

「防災用品を備蓄している」が6割半ば

防災に関して既に行っていることをたずねたところ、「防災用品を備蓄している」が65.6%と最も高く、次いで、「指定されている避難所(学校など)を確認している」(57.5%)、「勤め先(パートなどを含む)や学校の防災訓練に参加したことがある」(34.1%)の順となっています。

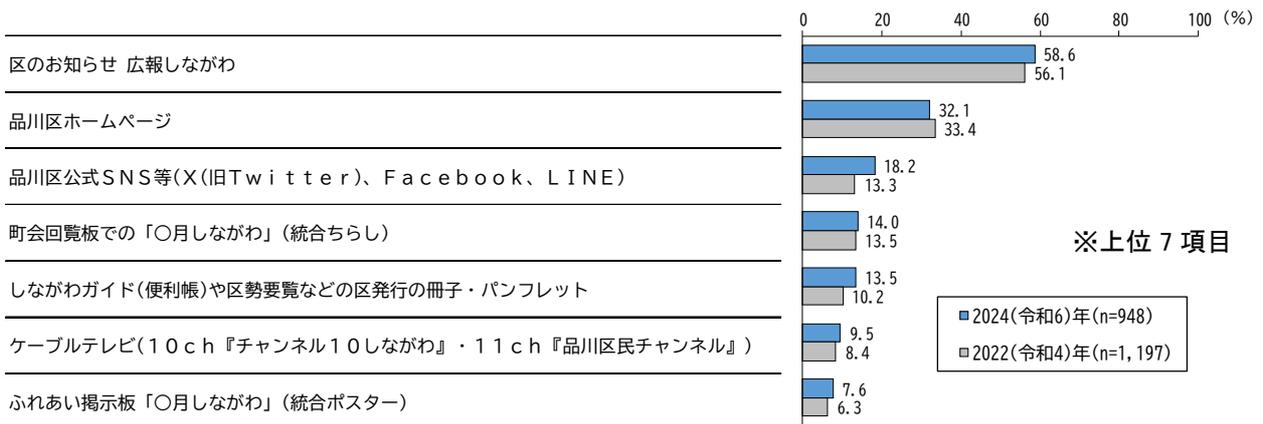


14 広報とデジタル化について

■ 区に関する情報の入手先

「区のお知らせ 広報しながわ」が6割近く

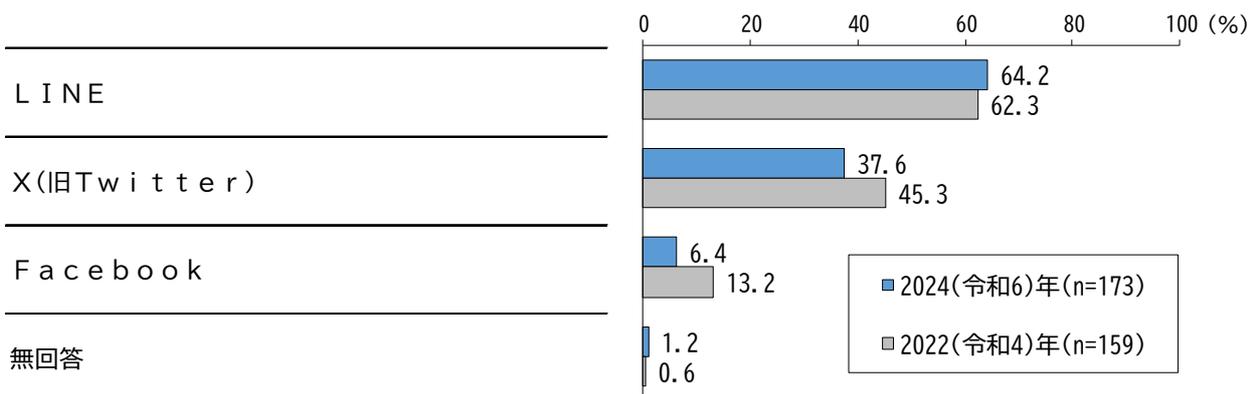
区に関する情報の入手先をたずねたところ、「区のお知らせ 広報しながわ」が58.6%で最も高く、次いで、「品川区ホームページ」(32.1%)、「品川区公式SNS等(X(旧Twitter)、Facebook、LINE)」(18.2%)の順となっています。



■ 公式SNS等のうち、何から情報を得ているか

「LINE」が6割半ば

公式SNS等のうち、何から情報を得ているかをたずねたところ、「LINE」が64.2%で最も高く、次いで、「X(旧Twitter)」(37.6%)、「Facebook」(6.4%)の順となっています。



第26回品川区世論調査 要約版

2024(令和6)年12月

発行 品川区区長室戦略広報課

品川区広町2-1-36

03(5742)6643(直通)

実施 株式会社ケー・デー・シー

東京都港区虎ノ門4-2-12

03(5733)5111